

シルバー やまがた

第114号 平成26年4月1日発行 (公社)山形市シルバー人材センター広報部会
正会員数 980名 賛助会員 47個人・50団体(3月末現在)



光禅寺のしだれ桜 (蔵王地区 後藤悦孝さん撮影)

—— 内容紹介 ——

- | | | | |
|----|---|------|------------------------|
| P2 | 平成26年度を迎えて | P6～7 | 会員のひろば |
| P3 | 地域班区域の見直しについて | P8 | 人あり・技あり・心あり
女性部会だより |
| P4 | 会員の状況・就業状況について
職班グループリーダーと
担当理事との意見交換会を実施 | P9 | 就業会員を訪ねて
新入会員紹介 |
| P5 | 地域紹介「わが街自慢」 | P10 | 事務局だより |

平成二十六年度を迎えて

理事長 長瀬 洋 男

生涯現役社会づくりを目指して

公益社団法人に移行してから早いもので三年目を迎えました。公益事業を行う法人として市民の期待に応えるべくこの二年間、会員の皆様と共に努力してまいりました。お陰をもちまして受注実績は、平成二十五年度当初予算と比較しても僅かですが増加傾向にあり、また、会員数も九百八十人となり、平成二十四年度末より多くなりました。これも偏に役員及び会員の皆様の努力の賜物と感謝申し上げます。

受注実績に明るい兆しが

さて、当センターを取り巻く現状を見てみますと、前述しました通り、僅かですが受注実績が増加し、会員数も増加傾向にあります。一概に景気の好転の所為とは言えませんが、明るい兆しが見えてきたのではと思われまます。

また、国からの補助金につきましましては運営費補助から事業費補助への一部切り替えが進む中、平成二十五

年度と比較して運営費補助金は十二万円の減額、事業費補助金は三十万円の増となり、全体で十八万円の増額となる見込みです。しかしながら過去二度にわたる事業仕分けにより減額された補助金がもとに戻ることにはあり得ませんし、今後とも更なる見直しが行われると思われまます。

イチイチ運動の推進を

シルバーだから補助金と仕事がある時代ではありません。センターの健全な運営を維持するためにも新規就業先の開拓や受注件数の増、入会会員数の増を目指して役員が一体となつて取り組んでいかなければなりません。

一人の会員が一人の新入会員を勧誘し、一人の会員が一つの新規就業先の開拓を行う「一…一（イチイチ運動）」を進めていかなければいけません。まさに東京大学の元総長でシルバー人材センターの生みの親でもある故大河内一男先生の「健康で

働く意欲を持っている高齢者が、地域で自分たちの組織を作り、高齢者に最も適するような仕事づくりを相談し、開発し、自分で担当する。他人にも奨めるといふような地域の自主的な老人運動」の具体化を推し進めていかなければならないものと考えまます。

生涯現役社会の実現に向けて

さて、厚生労働省の肝いりで招集された「生涯現役社会の実現に向けた就労のあり方に関する検討会」が、昨年六月に報告書を出しました。

検討会は、報告書の中で『高齢者が、就労等を通じて地域社会での「居場所」と「出番」を得られることや地域社会の「支え手」となり、健康で意欲を持ち続けながら生涯を送ることのできる『生涯現役社会』の実現に向けた就労・社会参加のあり方の基本的な考え方と方策』を提案しています。そして、高齢期の就

労・社会参加に向けた意識改革、就労・社会参加へのきっかけづくり、「企業人」から「地域人」としての地域の支え手としての高齢者の位置づけなどについて具体的な提言を行っております。

高齢者の生きがいづくり、働く意欲を持った高齢者がこれまでに培った能力や経験を生かして生涯現役で活躍できる社会づくりを目指そうとするものですが、今後のシルバー人材センターの目指すべき方向の一端を指し示すものでもあります。

自主・自立、共働・共助の基本理念をモットーに

当センターとしましても、「自主・自立、共働・共助」の基本理念をモットーに活力ある地域社会づくりに今以上に寄与していかなければなりません。

市民に信頼され、満足されるサービスの提供を通じてシルバー事業の社会性を高め、公益社団法人の名に恥じない質的向上と量的拡大を図ってまいります。

会員を始め、関係各位の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

地域班区域の見直しについて

総務部会長 鈴木 洋一

昭和五十五年に山形市シルバー人材センターが発足し、同時に「地域班編成要綱」が制定されました。

地域班の円滑な運営を行うため現在までに二度ほどの見直しを行ってきておりましたが、近年の急速な市街地開発などによる地域ごとの会員数の偏りが生じてきたことにより、大勢の会員を擁する大規模班や、他地域とで形成する合同班では地域の課題が適確に把握できないなど、班の運営に困難をきたすような状況になりつつありました。

平成二十五年一月の地域班班長と理事との意見交換会において、合同班班長から班の運営に支障が生じている実情が報告され、班構成の見直しの要望が出されました。

平成二十五年九月に理事長から「地域班区域見直し検討委員会」の委員として合同班班長五名、大規模班班長四名、総務部会二名の計十一名の委員が委嘱され、三回の会議を開催し各地域班の現状分析から始め、意見・要望を出し合いながら、「地域班のあるべき姿」について議論を

重ねて、次に掲げる「見直しの基本的な考え方」のもとに検討を行いました。

「見直しの基本的な考え方」

大規模班（会員数五十名超）や合同班の会員数を勘案し、大規模班は分割若しくは世話役を増員するとともに分割可能な合同班は地区ごとの班編成とし、よりきめ細かい地域活動を行うものとする。

一、地域合同班は会員数等の実情に応じ小学校区若しくは行政区を基準に分離する。

二、大規模班は地域特性等の地域の実情に応じ、分割若しくは世話役を増員する。

三、世話役は概ね十人程度を受け持つこととする。なお、班の運営上、一班あたり二人以上の世話役を置くこととする。

その結果、地域班を三増の二十八地域班に、世話役数を十人増の百七人とし、別表の地域班編成を取りまとめ、平成二十五年十二月の理事会に提案し審議の結果承認を得ました。平成二十六年から新たな班編成

により地域活動を行うこととなりま
すので、分離・分割された班につい
ては、世話役の皆さんには班運営に
ついて大変なご苦勞をおかけするこ
ととなりますが、特段のご配慮をお
願い申し上げます。

地区班編成

【見直し後】

(会員数:平成26年2月末現在)

地区班名	班員数	世話役				地区班名	班員数	世話役			
		班長	副班長	組長	計			班長	副班長	組長	計
第1	14	1	1		2	千歳	37	1	1	4	6
第2	39	1	1	3	5	飯塚・樫沢	31	1	1	1	3
第3	29	1	1	2	4	東沢	27	1	1	1	3
第4	27	1	1	1	3	滝山1	37	1	1	2	4
第5	22	1	1		2	滝山2	46	1	1	2	4
第6	53	1	1	3	5	出羽・明治	36	1	1	2	4
第7	23	1	1	1	3	金井	66	1	1	4	6
西	51	1	1	4	6	大郷	13	1	1		2
第8	30	1	1	2	4	山寺・高瀬	18	1	1		2
第9	11	1	1		2	楯山	15	1	1		2
第10	45	1	1	3	5	蔵王	52	1	1	3	5
鈴川1	23	1	1		2	南山形・本沢	48	1	1	4	6
鈴川2	43	1	1	1	3	南沼原	75	1	1	5	7
鈴川3	38	1	1	2	4	西部	17	1	1	1	3
							28	28	51	107	

(注) 地域班は4月1日から「地区班」と改正されます。

会員の状況・就業状況について

(平成25年4月～平成26年2月末まで)

①会員の状況

月別	入会者数	退会者数	当月末 会員数	備考
25.3.31			937	前年度末会員数
4月	43 (男33、女10)		980	
5月	21 (男14、女7)	119 (男84、女35)	882	
6月	11 (男7、女4)	1 (男1、女0)	892	
7月	18 (男9、女9)	2 (男2、女0)	908	
8月	7 (男7、女0)	1 (男1、女0)	914	
9月	9 (男7、女2)	1 (男1、女0)	922	
10月	15 (男12、女3)	5 (男3、女2)	932	
11月	16 (男14、女2)	1 (男1、女0)	947	
12月	12 (男10、女2)	0	959	
1月	11 (男9、女2)	3 (男2、女1)	967	
2月	14 (男9、女5)	1 (男1、女0)	980	
合計	177 (男131、女46)	134 (男96、女38)		男：754 女：226

②就業状況

区分	職群	就業延人数	備考
一般受注	技術群	43	経理事務、パソコン作業など
	技能群	38,287	襖・障子張り、剪定 など
	事務整理群	3,747	賞状筆耕、統計事務 など
	管理群	36,185	駐車場管理、施設管理 など
	折衝外交群	78	量販店での作業 など
	一般作業群	28,921	除草、草刈り、清掃 など
	サービス群	1,676	病院での洗濯、らくらく応援隊など
	計	108,937	
	独自事業	自転車再生	115
家具リサイクル		30	
即売会		16	
計		161	
子育て支援	子育て支援	1,201	
合計		110,299	

職班グループリーダーと 担当理事との意見交換会を実施

事業部会長 鈴木健一

会員の増加と就業機会の拡大を重点課題とした中期事業計画（計画後

期：平成二十四年度から平成二十六年（年度まで）に基づき、平成二十五年から地域班、職班班担当理事制を採っています。地域課題や職域課題を担当理事が把握し、センター機能の一層の強化と事業運営に反映させることを目的とするものですが、平成二十五年十二月、「職班グループリーダーと担当理事との意見交換会」を実施しました。

二十の職班を三区分し、三日間にわたる意見交換会では、各職場の状況や課題等についていろいろな意見や要望等が出され、大変有意義なものとなりました。主な意見・要望等は次のとおりです。

技術・技能・事務整理群（襖・障子班、剪定班、筆耕班など）

①派遣による自動車送迎業務の範囲と時間外業務手当てについて②筆耕班の後継者養成とスキルアップについて③剪定班の増員と技術力の平準化について

管理群（施設管理班、駐車場管理班など）

①派遣と請負の違いについて②就業先における横断歩道の交通誘導に疑問があり、実態をみてほしい。③施設の宿直業務だが「その他管理者の指示、指導するもの」とあり、それが大きな仕事になっている。④施設の職員と同様にインフルエンザの予防接種が行えるようにしてほしい。

折衝外交・一般作業・サービス群（折衝班、除草班、屋内作業班など）

①就業意欲に乏しい会員が見受けられる。状況を見てほしい。②就業会員の「あいさつ」について注意を受けている。研修を行うべきではないか。③除雪作業のため就業時間前の就業や除雪機械を使用しているがどうか。

会員の就業は就業先との請負契約によるのが基本ですが、内容が不明の点については確認するとともに、提言等については理事会に報告し、センターの運営に反映させてまいります。

山寺・高瀬地区

石山 哲雄

高瀬地区は山形市の北東方面に位置し、扇状地帯で、自然豊かな景観にも恵まれ奥羽山脈上流から流れる清らかな水は高瀬川となり、イワナ等も生息しております。

地域内には東部広域農道が開通し急速に交通量が増えてまいりました。咲き誇るべにばな里としても知られ、臼、杵、まないた等の天然木を使った素材で堅牢な木工品を作っている職人たちがいる地区です。

三宝岡地区の風立寺をご紹介します。

齊衡三年（西暦八五六年）天台宗の高僧慈覚大師（円仁）によって開山された寺で、本尊は阿弥陀如来、脇士に観音、勢至の二菩薩が安置されております。

本尊は大師自ら白檀の香木を用いて一刀三礼のもとに刻されその御胞に



風立寺、阿弥陀如来堂

は、東北巡錫じゆんせきのおり、夕日千草の中より求められた一寸八分の黄金仏がおさめられたのであります。

これにより三宝岡の生き如来としても名高い安楽往生の如来様は、霊験あらたかなお寺として参詣者が絶えたことがなく今日まで栄えてまいりました。

地域紹介

わが街自慢

パートII



西部地区

佐藤 義典

大曾根太鼓保存会は、創設されてから二十年以上を超え、地域おこしの先陣に立ち、これまで地域内外のイベント、諸行事への出演依頼と数多く、今や大曾根のシンボリックな存在として好評価をいただいております。

また、小学校児童達で編成された「桜組」は、愛らしさに凛々しさも併せ加えて法被、鉢巻き姿も勇ましく、バチを持つ姿は地区の将来に大きな希望を与えていただいております。

大曾根太鼓の発祥は、地区の青年団が盆踊り大会で太鼓を叩いたことが始まりです。その後、青年団は解散しましたが大曾根太鼓を惜しむ声が広がり、平成二年地区の伝統芸能として大曾根太鼓後援会



が発足。平成十年大曾根太鼓愛好会が再編しスタートしました。翌年、大曾根太鼓保存会と改称し、後援会が設立されました。以来、地区を挙げて後援を頂いております。

趣味は短歌



第五地区
志鎌 久子

り、私の趣味の短歌づくりにも適しています。

心や体を鍛える為に私はシルバー人材センターの会員となり、現在は山形大学地域教育文化学部にて就業させていただいております。就業グループの方々にも恵まれお世話になり、社会勉強もさせていただき休憩時にはいろいろな話にメモを取っております。校庭は春夏秋冬美しく彩

私が短歌に目覚め憧れたのは十六歳の春、約半世紀の間に新聞に入選したり、賞も頂けるほどに成長しました。この頃は年を重ねると共にのん気になる中、歌作りは適度な刺激を与えて下さいます。これからも心身共に若くありたいと働きながら歌を詠んでいくつもりです。

短歌三首（校内で詠む）

鏡拭く仕事に就きて五十年

面に向かひて心も磨く

蠟梅ろうばいと言ふ花教へ呉れし人

重き病に職場を去りぬ

大学にシルバー仲間と庭掃けば

紅きもみじ葉風に舞ひ上ぐ

仕事について思うこと



飯塚・樺沢地区
安達 寛

事をご紹介いただきましたシルバー人材センターのご担当の方に感謝申し上げます。

当方が現在仕事をさせていただいているのは、病院での宿直業務です。三日に一度の勤務で、三人でローテーションを組んで行っております。仕事に就いて一年四カ月経ちましたが、仕事が複雑なため十分対応しきれれておりません。職員の方々にご迷惑をおかけいたし、ご指導を受け、反省の日々です。また職員の方々に暖かく接して頂き、仕事をするうえで励みになっております。少しは皆様方のお役に立っているかどうかは不明ですが、自分自身は満足しており、今後もっと世の中に貢献できればと向上心をもって勤務致したく存じます。最後にこの仕

家庭菜園で健康づくり



南山形・本沢地区
渡辺 三吉

ありがとうございます。

定年を機にシルバー人材センターへ入会し、仕事の傍ら屋敷裏の畑で野菜作りをして楽しんでおります。

近隣は農家が多く、畑を見ると素晴らしい作物ばかりで手本として眺められる環境にあります。

キュウリやトマト、ナス等ホームセンターで売り出される苗木より一足早く専業農家から苗木を貰い受け、シーズン早めに作付出来ることも楽しみの中のひとつです。

当初は、雑草や害虫に悩ませられ



多員の健康・趣味

二鳥と言ったところです。体力の続く限り続けるつもりでおります。



は善悪共にみな生える」という言葉です。毎日の生活の中で、行い一つひとつが種で、のちのちに形として芽が出て表れて、それが又自分に返ってくるとしたら、良い行いを実践するに限ると思います。

る日々でした。プロの友人に「農業は雑草との戦いである」と言ったら「違う。やり方の違いだ」と言われたことが今でも脳裏に浮かんできます。

農業はなるべく使わずにと考えており、虫との共存といったところで

採りたての野菜は新鮮でおいしく、スーパーから買う量も減り、経済的にも助かります。嫁いだ子どもたちにも分け与えられるのが喜びです。おかげで体調もすこぶる良く一石



座右の銘

鈴川一地区 佐藤 孝子

以前、街であなたの「座右の銘」

は？とインタビューをしていました。私が聞かれたらと、ふと思いついてみました。いつも心していることは、心が種で身が田地、蒔いたる種

言葉の使い方も、あの人にこうしてやった、この人にもこうしてあげたと高飛車に出ると、やった、あげたと出ていき、反対にあの人に何々させてもらった、この人に何々させて頂いたというように、低く出ると、もらった、頂いたという言い方を変えただけで、良い事が入ってくるのだそうです。なる程である。

言葉は言いかえれば言の刀^はということを使いまちがえると刃物^はという、こわい道具にもなるという。

午年という私の年を迎え心新たに意義ある一年にしたいと思っております。

平成二十五年 夕オトル寄付者名簿 (敬称略)

地区名	氏名
第一	菅野 幸子
第二	鈴木 靖子
第三	村田 せつ子
第四	鈴木 美智子
第五	石山 一美
第六	豊田 マサ
第七	五十嵐 由子
第八	佐藤 美紀子
第九	村上 清志
第十	佐藤 敏行
第十一	鈴木 敏世
第十二	加藤 芳男
第十三	鈴木 千嘉子
第十四	会田 洋一
第十五	千歳 四釜 峯子
第十六	飯塚・樫沢 齋藤 喜美子
第十七	東沢 黒木 和子
第十八	矢代 鉄也
第十九	古林 キヨ子
第二十	名和 せい子
第二十一	滝山二 大澤 則子
第二十二	出羽・明治 植松 ユキ
第二十三	多田 信雄
第二十四	安達 つや子
第二十五	五十嵐 マサ子
第二十六	伊藤 美代子
第二十七	鈴木 生子
第二十八	蔵王 塩野 邦雄
第二十九	南山形・本沢 小笠原 拓昭
第三十	佐藤 久子
第三十一	佐藤 勝蔵
第三十二	南沼原 長谷部 ヒサ子

賛助会員の阿部好子さんからもご協力いただきました。

シルバーに

人あり 技あり 心あり

座禅で心豊かに



船山 三男

南沼原地区

日本に禅が伝えられたのは鎌倉時代とされている。

今日では著名人はじめ多くの方々

が座禅に取り組んでおられます。船山さんが座禅を始めたのは法事の時、菩提寺である勝因寺住職の勧めと自分自身の平常心を求めていることがきっかけで座禅歴は十五年になるとのことです。

お釈迦様が生まれた四月八日から悟りを開いた日十二月八日まで週一回の座禅です。

朝六時半から目を閉じて（本来は半眼）一時間の座禅だが睡魔が襲ったり、いろんな事が頭の中をよぎったりして世俗と喧騒を離れた無我の境地にはなかなか辿りつけないとのこと。

でも住職からは、それが普通だからと言われているそうです。

また、半跏趺座（どちらか一方の足を組む座り方）の姿勢で足がしびれ、心ならずも姿勢が崩れると警戒が入るので座禅の厳しさと難しさを

実感している。しかし、これまで続けられたのは朝の清々しい寺の本堂に入ると何故か心が静まり、静寂感が漂い新鮮な空気が美味しく何とも例えようのない心の安らぎが大きな理由の一つですとお話しされました。

座禅中の丹田呼吸法や終了時のお香の香りで包まれたお堂の中での般若心経の読経などが大変健康に良いのではということ。

そして何よりも座禅を終えた時の身も心も新たな生気を得たような充実感がたまらないということでした。

お話を伺って感じたのは故川上哲治氏がよく修業（座禅）された岐阜県にある臨濟宗正眼寺山川宗玄住職の言葉です。

「座禅を通してこれまで見えなかった自分をもう一度見つめ直す」
今後ますます充実した座禅であることをお祈りし取材を終えました。

（取材・広報部）

女性部会だより

女性部会長 村田せつ子

女性部会のボランティア活動でありますバザーの売上金五万円を、平成二十五年度も山形学園の未来を担う子どもたちへ、CDプレーヤー五台分として寄贈いたしました。これに対して一月二十八日、市川山形市長より二年連続して感謝状を賜りました。市庁舎のひと足早い春の雰囲気を出している啓翁桜が、まるで学園の子どもたちの笑顔の花が咲いているように感じたところです。

継続は力なり。皆さまよりご支援頂き七年目になりました「タオル一本運動」も、今回は二百五十本のご協力がありました（寄付を頂いた方々のお名前は七ページに掲載してあります）。二月四日、六日町あいあい、すげさわの丘、二つの施設を訪問しお届けいたしました。重度の障がいの方々が入所されているすげさわの丘では、車イスでの出迎えを受けて「ありがと、大切に使います。」と感謝の言葉を頂き、心に温かく伝わりました。多くの会員の皆様より、ご賛同ご支援頂き心より感謝申し上げます。私達の小さな取組みが会員の皆様へ浸透して、大きな心の輪となりますよう、引き続きたくさんのご協力を女性部一同心よりお願い申し上げます。



事務局だより

（公）山形市シルバー人材センター
山形市双葉町一丁目二番三号
電話（〇三三）六四七―六六四七

URL: <http://www.sjc.ne.jp/yamagatahi/>
E-mail: yamagatahi@sjc.ne.jp

年度替えの手続きについて 更新と退会手続きをお早めに！

年度替えになり、会員の更新手続きの時期です。世話役の方々に会費の集金をお願いしておりますので、会費の納入をお願いいたします。

また、退会される方は、退会手続きが必要となりますので、各地区班の班長までご連絡をお願いいたします。

行事イベント案内

■平成二十六年度

定時総会の開催

六月開催予定
懇親会も予定しております。
詳細は後日ご案内いたします。

消費税率引き上げに伴う配分金単価の改正について

消費税法が改正され、平成二十六年四月一日から消費税率が五%から八%に引き上げられました。シルバー人材センターで請け負う事業の契約単価も税率八%を転嫁した金額へ改正となります。

契約単価の改正に伴い、配分金単価も改正されます。五%の税込で設定していた契約単価を税込八%で再

計算した金額が新契約単価となり、そこから事務費を差し引いた金額が新しい配分金単価となります。個々の金額につきましては、四月配分金支払明細書（五月二十日支払）をご参照ください。
※消費税抜きで契約している業務の単価については、一部据え置きとなります。ご了承ください。

お知らせとお問い合わせ



■配分金支払日

- 四月十八日（金）
- 五月二十日（火）
- 六月二十日（金）

■入会説明会（午後一時三十分）

会員の皆さんからも入会の勧誘をお願いいたします。

- 四月十日（木） 十七日（木）
- 二十四日（木）
- 五月八日（木） 十五日（木）
- 二十九日（木）
- 六月十二日（木） 十九日（木）
- 二十六日（木）

■就業相談日（午後一時三十分）

（就業に関する相談です）

- 四月十日（木）
- 五月八日（木）
- 六月十二日（木）

訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

伊藤 義美さん（六十五歳）
（金井・大郷地区）

あとがき

日本選手の活躍で金一銀四銅三のメダルを獲得し、ソチ冬季五輪が閉幕しました。東日本大震災で未曾有の被害に遭い、苦難を乗り越え成し遂げた仙台出身でフィギュアスケートの羽生結弦選手の活躍は見事なものでした。本県関係の加藤・ウイリアムソン両選手は、スピードスケートに出場しましたが、メダルに届きませんでした。次期開催国の韓国のピョンチャンでは、雪辱を果たしてほしいものです。さて、四月といえば桜。桜といえば花見。桜が開花するまでは、夏に花芽を形成、その後休眠状態に入り、晩秋からの低温に一定期間さらされると休眠状態から覚め、春先の気温の上昇と共に生長し開花します。昨年十二月までは暖かかったものの、一月以降は平年よりも低温となり休眠打破後の気温の上昇により生長が進み、平年並みの開花と山形気象台は予測しています。昔から花見をする風習はあったようですが、桜の花を見るようになったのは平安時代になってからであり、それ以前は梅の花を見ていたようです。

最後になりましたが、会報一四号「シルバーやまがた」の発刊にあたり、ご執筆、取材にご協力いただきましたありがとうございます。